

Some Problems of Translating Emotion Words from Russian into
Japanese in F. Dostoevsky's novel "White Nights": Contrastive Analysis
of Three Japanese Translations with the Russian Original Text
Concerning Emotional Discourse.

フョードル・ドストエフスキーの小説『白夜』における感情表現の翻訳の
問題：感情的談話に関する原文と和訳の比較分析

博士論文要旨

Holoborodko (Vasilyeva) Alexandra

言語社会研究科 博士論文要旨

論文題目 Some Problems of Translating Emotion Words from Russian into Japanese in F. Dostoevsky's novel "White Nights": Contrastive Analysis of Three Japanese Translations with the Russian Original Text Concerning Emotional Discourse.

(邦訳題目：「フョードル・ドストエフスキーの小説『白夜』における感情表現の翻訳の問題：感情的談話に関する原文と和訳の比較分析」)

著者 Holoborodko (Vasilyeva) Alexandra

本稿は、フョードル・ドストエフスキーの小説『白夜』を題材にして、ロシア語と日本語の間の翻訳を対象とした研究である。異文化間コミュニケーションの一つである翻訳の中で多くの問題や誤解を起ししやすいのは、感情語である。感情語の翻訳論と談話分析の立場からの考察が、本論文の主要なテーマと言える。文学作品とその翻訳における感情表現の分析はその作品の言葉の分析だけでなく、作品の背景にある言葉や文化の分析にもなる。

本稿では、三つの言語学的な翻訳分析方法を援用し、三つの翻訳に見られる感情表現の翻訳ストラテジーを考察する。三人の訳者が選択した翻訳方法とテクニックを分析することによって、感情表現の翻訳方法を分類し、ロシア語と日本語の感情的な談話を対照分析した。

実例分析の対象としてフョードル・ドストエフスキーによる『白夜』という小説を選んだ。ロシア文学の中で表現力豊かな作家の一人であるフョードル・ドストエフスキーによる作品は本研究のテーマに非常に適している。『白夜』という小説は特に感情表現に富み、ドストエフスキー自身も「感傷的ロマン」と名づけている。『白夜』の翻訳と再翻訳を、分析し考察することは、日本語とロシア語の両言語の特質や日本語への翻訳の特徴的な傾向を、鮮明に描き出す手がかりとなる。

しかし、本研究はコーパス研究ではなく、かつ原文のテキストが限られているため、行われた分析はロシア語と日本語における感情言葉のごく一部しか取り扱っていない。この研究の目的は、ロシア語と日本語における感情語彙の分析を行う手がかりを与えることにあり、しかも利用したコーパスは限られているため、一つの文学作品における感情言葉の分析に集中している。さらに、その文学作品はフォードル・ドストエフスキーによる小説であり、ドストエフスキーという作家のスタイル、言葉遣いの独自性もある。従って、本研究は特定のテキストとその日本語訳の感情的談話に関する対照分析である。

テキストの中の感情表現の言葉の分析方法として、Z.Kovescs と Laird and Oatley の感情表現の言葉に関する理論を使い、感情を表す言語的な手段を次のカテゴリーに分けて分析した。

- 1 記述的感情表現 (descriptive means/ language of emotions) :
 - a 感情の総称 (Generic emotions) ;
 - b 基本感情語 (Basic emotions) ;
 - c 情動的な関係を表す感情語 (Emotional relations) ;
 - d 原因のある感情語 (Caused emotions) ;
 - e 使役感情語 (Causatives) ;
 - f 感情的な目的を表す感情語 (Emotional goals) ;
 - g 複合感情語 (Complex emotions) .
2. 表出感情語 (expressive means/ emotional talk)
3. 感情を表すメタファーとメトニミー

当論文では、上記の感情表現の言葉の区分に従って、ロシア語の原文に基づいて発話を分類し、三つの和訳における感情表現の言葉を対照分析した。

翻訳分析には P. Newmark の翻訳ストラテジーの理論、M. Baker の翻訳論と E. Nida の等価性の理論を用いた。

本論分は談話分析の試みでもあり、Widdowson H.G.による談話分析方法と Jorge Ruiz による談話分析理論の二つに基づいている。その二つを合わせた総合的なアプローチを適用して、テキストのレベルでの談話分析（内容分析）、文脈上のレベルでの談話分析（状況分析、テキストの間の分析）、社会学的談話分析を行った。

さらに、本稿では、作品の原文とその翻訳における言葉遣い、表現、比喩などの分析にも、紙幅を大きく割いている。『白夜』のロシア語原文と日本語訳との対照を通して、日本語の三つの翻訳を対照し、日本語における特徴的な感覚の表現とその概念の内容を考察する。一定の社会状況を反映していると考えうる文学作品の分析は、ロシアと日本文化の特徴を考察、抽出する上で、有効な手段となるはずである。

本研究では感情語の使用、ロシア語と日本語における感情語の特徴、感情語の翻訳の問題に関する結論に達した。その結果について以下に述べる。

ロシア語と日本語の言語的形態構造の違いから、感情語の翻訳問題が発生する。ロシア語は屈折言語に属し、日本語は膠着言語に属している。屈折構造を持つロシア語は、名詞の格が名詞自体の屈折によって主格、属格、与格、対格などに変化し、動詞の法（直説法、接続法、希望法、命令法など）と時制（過去、現在、未来など）が動詞自体の屈折によって決まる。一方、膠着言語の構造を持つ日本語は、名詞の語幹に格助詞が膠着して名詞の格を表し、動詞の語幹に接辞が膠着して動詞の活用形を表す。このような文法的形式の違いは、感情語の把握に大きな相違をもたらす。その場合、訳者が使用する翻訳方法は機能上の等価性、文法的な変化、並びに意味の戦略的意識ないしは省略である。

ロシア・日本間の文化や宗教観の違いからも、感情表現の相違が生じる。たとえば、ロシア語では、驚きや、恐怖、喜びなどの感情を表すには神への呼びかけの形を持つ間投詞が使

われている (*Боже мой! О Боже!* など)。日本語に訳す際に、翻訳者は次のような問題に直面することになる。目標言語(TL)を重視するのか、それとも起点言語(SL)を重視するのか。たとえば、小沼訳と北垣訳では意識が使われ、井桁訳では直訳が使われている。このことを E.Nida の理論上で言い換えれば、形式上の等価性 (formal equivalence) と機能上の等価性(dynamic equivalence)という二つの翻訳方法である。形式上の等価性に基づいている翻訳は翻訳受容者になじみのないロシア文化の特徴を伝えようとしている。一方、機能上の等価性に基づいている翻訳は直に感情的なメッセージを翻訳受容者に届けようとしている。

ロシア語と日本語において意味内容が異なる感情語が多い。基本的な感情語の類義語を翻訳する際、目標言語である日本語には類義語が少なく、ぴったりと合致する感情語がない場合が多い。(例：悲しみという基本感情に基づいているロシア語の原文の *мука, мучение, страдание, терзаться* という感情語がほとんどの場合には日本語の「苦しみ」という上位語で訳されている)。こういう場合、意味戦略と上位語での翻訳のストラテジーが使われるケースが多い。

起点言語の文化に特徴的な感情語も訳者に問題をもたらす。ロシア語の *тоска, уныние, влюблённость* という言葉がその一例であり、その翻訳方法は成分分析、意味戦略、上位語と目標言語の文化的対応語での翻訳である。そうした場合、ある程度の意味戦略は避けられないものである。

目標言語の文化的な対応語での翻訳もよく訳者に使われ、ストラテジーとしては意味的な拡張になる。ロシア語の *недоумение* という感情語は日本語の「狐につままれたように」という表現で訳された場合、意味内容が違い、意味的な成分が異なる。その一方、こういう翻訳は読み手に大きな表現的効果を与える。

メタファーの翻訳に使われた方法とメタファーのソースドメインとしてよく使われている *сердце* (心)の翻訳方法とその文化的な特徴の分析も、興味深い結果をもたらした。

感情的談話分析を行った結果として、それはテキストの理解、両言語の言葉遣いの分析には不可欠のものであるということが分かった。そのテキスト上のレベルでの分析は文学作品で用いられる言語的・文体的トーンへの理解を深めてくれる。（本論分で使われたテキストは喜びという基本感情に基づく感情言葉が一番多く、その中で愛情を表す言葉が一番良く用いられる）。文脈上のレベルでの状況分析は文学作品の背景、作家の感情的な状況を明らかにする。他のテキストとの対照分析はその時代に特徴的な言葉遣い、感情の表し方を明示する。それは翻訳を行う際、翻訳を読む際、作品の全体的な理解に必要な背景知識である。

総合的に言えば、本論文ではロシア語から日本語への翻訳の際に見られる感情言葉の翻訳問題とそれを解決するための翻訳ストラテジーを分析した。その分析には、感情語の分類、翻訳方法の分類と談話分析のフレームワークの構築が必要となった。その分類やフレームワークの活用によって、感情語の翻訳の際に生じる問題やその問題への取り組み方や解決法を明らかにした。